

原幸代子さん

WASSA MODA /
熊本ファッションストーリー実行委員会事務局長

PROFILE

1950年生まれ。熊本市役所職員時代に女性で初めての総務局長に登用される。夫と息子2人の4人家族。

取材担当

熊本大学3年
請外葵

批判や感情論ではなく、
建設的な意見を
言える訓練を



熊本ファッションストーリー
実行委員会事務局

熊本市中央区南千反畑町11-12-801
有限会社アサンテ・カンパニー内
E-mail : info@wassamoda.jp
URL : http://wassamoda.jp/

輝きの軌跡

原幸代子さんの
キャリアストーリー

1972年	熊本市役所入庁。
1987年	市民相談課や建築指導課、広報課などで業務にあたる
1993年	新設された婦人生活課主査
2004年	婦人生活課長
2006年	女性初の総務局長に就任
2010年	市民生活局長
2011年	熊本市役所を退職
2011年	熊本市ファッションストーリーを主催

— WASSA MODA とは、どのような活動ですか。

原 「わさもん」とファッションをかけた造語で、「ファッションで街を元気にしよう!」という取り組みです。2011年から年に一度、上通・下通・サンロード新市街で熊本スタイルのファッションフェスティバルを開催しています。「CONNECT」をテーマに、「時代(とき)、ひと、まち、文化」をつなぎ、多くの方に街に出てきてもらうためのさまざまな仕掛けを考えています。2014年は、下通の特設ランウェイでのファッションショーや音楽ステージ、街で見かけたお洒落な方をフォトキャッチして通行者が投票するイベントなどを行いました。一規模が大きな活動を企画、実行するのは大変ではありませんか。

原 やりたいことを5年計画でたくさん考えているのですが、退職後、一番にやりたかったことがWASSA MODAでした。いろんな場所で夢を語り、皆の協力で実現させることができている活動です。1人ではできなくても、それぞれの人が持ち場を決めて協力することで実現が可能になります。私が描いたことを、皆で作り盛り上げてくれて感謝しています。また、活動を続けるためにも、

日ごろからアンテナを長く遠くに広げるようにしています。何かを始めるとき、情報収集はとても大切です。一熊本市職員として女性で初めて管理職に就かれたと聞いています。その経験の中で大切だと感じたことを教えてください。

原 政策方針決定の場で自分の意見を言うことです。保育や育児、介護、そして経済、街の活性化のための意見を生活者として発信することが必要です。会議などに受け身でただ参加しても意味がありません。どの場においても、批判や感情論ではなく、建設的な意見を言えるように訓練する必要があります。私が、先輩から言われ、大切にしている言葉は「肩肘を張らずに胸を張っていきなさい」です。女性たちが与えられたポジションで努力していくと、もっと輝く女性が増えると思いますよ。

自分らしいチャレンジをしてほしいと思います。自分を大切にしなければいけませんよ。

